

## 4 アレルギー科フェロー研修要綱

指導責任者 高里 良宏

当科では、「基礎・臨床・社会」の3本柱に立脚して、アレルギー疾患の診療、研究、社会活動に取り組んでいます。病院内での診療に留まらず、基礎医学から社会的な問題まで、広い視野を持ったアレルギー専門医の養成を目指しています。

- ・ <基礎>基礎免疫学、臨床アレルギー学はもちろん、栄養学・食品化学など、医学以外の専門家ともつながりが多くあり、幅広い分野での研修が可能です。
- ・ <臨床>食物アレルギー、アナフィラキシー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など小児アレルギー疾患全般にわたる診療を行っています。なかでも食物アレルギーに対する経口負荷試験と経口免疫療法に力を入れ、多くの重症患者を治療しています。研修の際には、負荷試験の担当や免疫療法の主治医も担当していただきます。
- ・ <社会>園、学校、保健、行政、患者団体などと共同して、社会的なアレルギー対応レベルの向上に寄与する役割は重要です。アレルギー支援ネットワークを通じた、エピペン指導講習会やアレルギー対応のための講座を任される機会も多くあります。研修を通して、社会的な活動を支えられる専門医を養成したいと考えています。

### 1. 活動実績（患者数、発表数などは平成31年度実績）

常勤医	6名（アレルギー指導医1名、総合診療科兼務1名）
フェロー	5名（中部地方から5名）
外来延べ患者数	8966名/年
入院患者数	延べ1700名/年
施設認定	日本アレルギー学会認定教育施設 日本小児臨床アレルギー学会認定教育研修施設 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院
学会発表	29演題（国際学会演題4演題、小規模の研究会など除く）
誌上発表	22報（原著論文：英文9報、和文1報）
研修期間	原則2年ですが、1年から3年まで相談に応じます。

### 2. 主な診療内容と特徴

#### 食物アレルギー

食物経口負荷試験：平成31年（令和元年）度実績 1323件

[ 日帰り入院負荷 1167 件（運動誘発試験含む）、

消化管アレルギー用入院負荷：20 件、外来負荷 136 件 ]

急速経口免疫療法：平成 31 年度実績 20 例（鶏卵 3、牛乳 5、小麦 3、ピーナッツ 9）

管理栄養士（小児アレルギーエデュケーター）による個別栄養指導 常時

集団アレルギー料理教室 隔月

患者さん向けアレルギー教室 年 2-3 回

食物依存性運動誘発アナフィラキシー：誘発試験 毎週 3 人

### 気管支喘息

呼吸機能検査、可逆性試験、運動誘発試験、気道過敏性試験、嚥下造影

重症喘息児に対する生物学的製剤導入

喘息入院加療（急性期）

### アトピー性皮膚炎

重症例に対する 1-4 週間の入院治療（年間約 10 例弱）

外来看護師（小児アレルギーエデュケーター）によるスキンケア指導

精神的、社会的問題（虐待）を抱えた症例は、保健部門および心療科と共同で診療。

### アレルギー性鼻炎

アレルギー特異的免疫療法【皮下免疫療法（平成 31 年度新規導入 6 例）、舌下免疫療法（平成 31 年度新規導入 71 例）】

### 薬剤アレルギー

リンパ球刺激試験、皮膚テスト（プリックテスト、皮内テスト）

薬剤負荷試験（平成 31 年度 6 例）

#### 3. 研修内容

##### ・ 外来

主に 2 年次以降に外来主治医として、新患・免疫療法実施症例を継続的にフォローします。

##### ・ 病棟

食物経口負荷試験と急速経口免疫療法を担当します。入院患者は担当医+回診当番制で、毎日症例カンファレンスを行って診療します。

##### ・ 研究

臨床研究の立案からデータ解析・発表・論文執筆まで、意欲に応じて指導します。

学会発表（年 1 回以上）、論文執筆（1 報）を目標とします。

名古屋学芸大学管理栄養学科、藤田医科大学、三重大学、京都大学、国立病院機構相模原病院など幅広い共同研究施設と、多くのテーマで臨床研究を進めています。

名古屋大学関連病院や、東海地区の各種アレルギー研究会による多施設共同研究も立案して、実施するチャンスがあります。

- ・ カンファレンス・抄読会

毎朝 30 分          入院患者のミーティング等

毎週火・金曜日（土曜）夕方 抄読会・症例検討会・各種研究の打合せ・学会予演会

- ・ 愛知県では、小児アレルギー関連の研究会が多数あり、それぞれ定期的に講演会を開催しています。全国トップレベルの講師（臨床・基礎とも）の話が身近に聞けると共に、そうした場で発表する機会も豊富です。

- ・ 市民・専門家向け啓発活動

一般市民や患者・保健・教育・栄養関係の専門家を対象とした講演会に講師として参加、アレルギー相談会など様々な社会啓発活動に参加し、アレルギーの社会的な諸問題に触れる機会があります。

#### 4. 主な研究テーマ

- ・ 食物アレルギーに対する急速経口免疫療法
- ・ 食物アレルギーに対する緩徐微量経口免疫療法
- ・ 食物アレルギーに対する食事指導方法の確立
- ・ 食物アレルギーにおける運動誘発症状の機序検討
- ・ 食物アレルギー即時型症状に対するステロイド薬の有効性の検討
- ・ 運動による食物アレルギー症状誘発の評価
- ・ TGF $\beta$  を併用した緩徐経口免疫療法（多施設共同研究）
- ・ 重症鶏卵アレルギー児に対する早期経口免疫療法（多施設共同研究）
- ・ 魚卵アレルギーの原因及び交差反応性の検討
- ・ 小麦アレルギーと大麦アレルギーの合併率の検討
- ・ 加熱による山芋のアレルゲン性の変化の検討
- ・ 稀少アレルゲンに対するアレルギー患者のプロテオミクス解析（多施設共同研究）
- ・ 当院より処方されたエピペンの使用実態調査
- ・ 小児重症アトピー性皮膚炎患者の観察研究（多施設共同研究）
- ・ 1-ケストースの継続的な摂取がアレルギー応答に与える影響調査（特定臨床研究）
- ・ 食物アレルギー反応に対する DHA/EPA の抑制効果に関する研究（特定臨床研究）
- ・ 鶏卵、牛乳、小麦アレルギー児に対する同時緩徐微量経口免疫療法の検討
- ・ 食物アレルギー児の QOL をその児本人が回答する疾患特異的尺度を開発する研究

- ・ 食物アレルギー児を持つ養育者の QOL を評価する疾患特異的尺度を開発する研究
- ・ 食物アレルギー児の QOL をその養育者が回答する疾患特異的尺度を開発する研究
- ・ マカダミアナッツアレルギーの原因蛋白の同定（多施設共同研究）
- ・ 食品に含まれるアレルゲンの変性、低アレルゲン化とアレルゲンコンポーネントに関する検討
- ・ 乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験（多施設共同研究）

## 5. 関連団体

認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク